

おいで my ラジオ

～Can you here my radio?～

代表者 徳田 凜 (創造工学部 創造工学科 2 年)

1. 目的と概要

本プロジェクトは、FM 高松にて月に 1 回放送しているラジオ番組「Art Time Junction」の制作を通して、「香大生が香川の魅力を伝える」という活動である。この活動を行っている本団体「Radio18」は、今年度で 10 周年を迎えた。今年度も、ラジオ番組「Art Time Junction」の制作を主軸として、様々な活動を行ってきた。特に、本年は昨年度に比べて新型コロナウイルスによる影響も少なくなってきた。そのため、子供セミナーや高校生セミナー、また、外部講師による講演会といった、学内外の方々と交流するイベントも複数行うことが出来た。また、瀬戸内国際芸術祭の開催年であったため、各島々を巡り、取材も行った。本番組は、香大生の夢チャレンジプロジェクトのご支援により、2022 年 7 月から 2023 年 3 月にかけて、1 時間尺の番組を計 9 本制作した。そして、FM 高松にて毎月第 4 水曜日の 22 時から放送した。

2. 実施期間 (実施日)

令和 4 年 7 月 1 日から 令和 5 年 3 月 31 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトでは、毎月第 4 水曜日の 22 時から 1 時間 FM 高松にて「Art Time junction」という番組を放送している。今年度は「おいで my ラジオ ～Can you here my radio?～」をテーマに番組放送を行った。コロナの影響もあり取材回数は少なかったが、今年度は取材に力を入れて活動をしており瀬戸芸企画や香川大学内の他のプロジェクトへの「潜入調査」を行うことを通じて、香川県に魅力を発信する番組の制作に注力した。

学外への取材としては、瀬戸芸企画を行った。香川県で3年に1度のみ開催される瀬戸内国際芸術祭に着目し、本プロジェクトのメンバーが実際に島に赴き、アートなどに触れながら島についてのクイズや、現場のリポート形式など様々な企画を考え各島の魅力を発信してきた。

取材した島(瀬戸芸)	放送月
男木島・女木島	5月
小豆島	8月
直島	9月
豊島	12月

学内への取材として、地域活性化に取り組んでいる団体取材し大学生による地域活性化の取り組みを発信した。取材は、団体の活動に本プロジェクトのメンバーが実際に参加させていただき、「潜入調査」という形をとった。そしてその様子をリポートし発信した。

取材した団体(潜入調査)	放送月
防犯パトロール隊	6、7月
ちょんまいガーデン	7月
多度津町ラボ	9月

また昨年に引き続き、「子供セミナー」と「高校生セミナー」を行った。昨年と同様に若者のラジオを離れ問題を解決すべく、ラジオ番組に触れる機会やマイクを通して話すことへの楽しさを提供するために開催した。「子供セミナー」は8月6日に3人の小学生を対象に行った。昨今問題になっているメディアリテラシーなどをわかりやすく小学生に教える講座や「夏休みの思い出」をテーマにそれぞれで話題を制作し、収録を行った。「高校生セミナー」では、高松市生涯学習センター学びCAN様と連携し、昨年よりさらに進化させて行った。流れとしては、本プロジェクトで行っていた「潜入調査」を地元の高中生とともにいき、そこで体験した内容を取り上げ、公開収録を行った。大学生だけでなく高校生の視点からの地域活性化に対する意見を得られたり、大学生と地元の高校生の交流という場を設けられたりと、非常に有意義な活動だったと思う。また、今年度もスキルアップのため、元アナウンサーで地域連携部門に所属されている中井今日子氏や、リンクアップとっしー氏をゲストとして招き、講演会や収録を通じて、番組をより良くする方法について学んだ。

協力団体
棚田の会
Kitahama Lab
またたび
瀬戸内地域活性化プロジェクト 東かがわ班



画像1 子供セミナーの様子



画像2 棚田の会への潜入調査



画像3 高校生セミナー公開収録の様子



画像4 リンクアップとっしー氏による講演会

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

本プロジェクトで今年度行った事業は、前年度と比較して、学内外の団体と関わるが多かった。そのため、本学や地域社会に与えた影響・効果は複数挙げられると考える。

まず挙げられるのは、香川大学内の団体、特に地域に根差して活動している団体を、ラジオを通して紹介出来たことである。取材させて頂いた各団体は、普段から地域の魅力を発信すべく、活動を行ったり、Twitter や Instagram でその活動を報告したりしている。今回、本プロジェクトでは、そのような団体に取材をし番組のコーナーである「潜入調査」を制作・放送した。このコーナーを通して各団体の活動を発信することで、普段はその活動を目にしていない世代にも、団体の存在を伝えられた。また、本年度開催された瀬戸内国際芸術祭の取材では、ラジオ番組のコーナーと Radiol8 の Instagram のアカウントを連動させた企画も行った。具体的には、Instagram を用いて瀬戸内国際芸術祭の概要や作品を、大学生の視点で紹介した。この取り組みにより、普段はラジオに興味を持っていない方々を、ラジオというメディアに取り込むことが出来たと考えられる。

また、子どもセミナーや高校生セミナーを通して、地元の小中学生にラジオというメディアや香川大学について知ってもらうことが出来た。特に子供セミナーでは、番組作りだけでなく、メディアリテラシーの講座も行った。近年、若年層にも浸透しつつある SNS の運用方法やその正しい使い方を教えることで、地元の小中学生に新たな知識を提供できたことは、評価できるだろう。そして、高校生セミナーでは、高校生と先述の香川大学の団体を引き合わせ交流することで、高校生に大学生活や大学の雰囲気を感じてもらえた。日常生活では滅多に関わる事のない、大学生と高校生が活動を共にすることで、お互いにとって新たな知見を得ることに繋がったのではないだろうか。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

また、今年度の活動によって、本団体のメンバーは多くの知識や大学生活にも還元できるスキルを身に着けることができた。得られた知識やスキルとして、次の二つが挙げられる。

一つ目は、取材の際の、外部との関わり方である。具体的には、取材申し込みの際のポイントメントの取り方や、取材先の団体に対する話の引き出し方である。ポイントメントの方法としてメールや SNS のメッセージ機能を用いたが、日時や取材先を決めたり、当日の流れを計画したりすることは、1 回生が多くを占める本団体では、難しかった。また、経験値としても少なかった。ゆえに、「潜入調査」や高校生セミナーにおける取材申し込みを通して、その技術が身についたと感じた。また、取材先の団体が、どのようなことを目的として活動しているか、そしてどのような質問をすればその魅力を発信できるか、を考えることで、相手の意図をくみ取った会話を展開出来るようになった。このような能力は、大学生活や就職活動といった場でも役に立つと考えられる。ゆえに、今年度の柱である「潜入調査」や高校生セミナーなどは、自分たちの学生生活に大きな影響を及ぼしたと

考えた。

そして、取材を通して、学内外の団体と繋がりを持てたことも大きな収穫である。ここ数年は様々な影響を受け、団体内のみで番組の企画・制作を行うことが多くなっていた。そのため、聴取者のニーズに合った番組とはかけ離れているということも実感していた。しかし、前述の通り、今年度は複数の団体を取材し、地域に向けた活動を行うことで、番組の質を向上させ、学内外の団体と関わることが出来た。このような体験が出来たことは、本団体、そしてメンバーにとっても良い影響を及ぼしたと分析できる。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

ここまで述べてきた通り、今年度は多くのイベントや番組制作を行ったことで、地域にも本団体にも良い効果をもたらした。一方で、体験したことのない取材やイベントに戸惑い、計画通り進まないこともあった。特に高校生セミナーでは、各高校やまなびCAN様との連携がうまく取れず、円滑に計画を勧められなかったこともあった。このように、外部との連携をどのようにして進めていくか、ということは来年度に向けての課題として挙げられるだろう。また、「Art Time Junction」に関しては計画通りに制作・放送を行うことが出来た。そして取材によって内容も充実させられたのは、評価に値すると考える。

そして、来年度はより番組の質を上げ、地域との関わりを増やすために、県内の銭湯や飲食店などに「潜入調査」をしていくことを計画している。今後も本団体は、大学生の視点から見た香川を伝えるべく、活動を続けていく予定である。

7. 実施メンバー

代表者	徳田 凜	(創造工学部 2年)		
構成員	木村 聡喜	(経済学部 4年)	中嶋 日菜子	(農学部 4年)
	中奥 あみ	(経済学部 4年)	戸根 和哉	(経済学部 3年)
	松尾 菜々美	(農学部 2年)	亀川 哲	(経済学部 2年)
	三戸 彩世	(創造工学部 2年)	瀬川 菜子	(創造工学部 2年)
	上野 綾子	(経済学部 2年)	高重 晴基	(教育学部 1年)
	中川 碧	(経済学部 1年)	太田 涼聖	(教育学部 1年)
	谷口 陽香	(経済学部 1年)	谷定 千尋	(経済学部 1年)
	白川 果歩	(経済学部 1年)		

8. 執行経費内訳書

配分予算額		199,500円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
電波使用量	9	5,500	49,500	
子どもラジオセミナーにかかる 費用	1	5,500	5,500	
瀬戸芸_小豆島	1		14,800	
瀬戸芸_直島	1		20,560	
瀬戸芸_金毘羅	1		10,300	
瀬戸芸_豊島	1		43,120	
取材_丸亀	1		3,360	
レコーダー、スプリッター	2		6,172	
ACアダプター、マイクスタンド 、ヘッドフォン	4		17,437	
ワイヤレスイヤホン、ヘッドフ ォン、イヤホンスプリッタ	3		15,261	
講演会に係る謝礼金	2	5,000	10,000	
合 計			196,010	